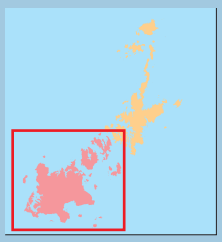
五島市教会巡り ハンドブック

きっと出会えるやさしさとぬくもり
教会は“神聖な祈りの家”

下五島教会マップ



久賀島
（亀河原）つばき原生林
6 浜
7 半泊教会
宮原教会 8
戸岐神社
厳立神社
堂崎教会 9
アコウ巨木
南河原展望所
浦頭教会 10
空海記念碑「辞本涯」
16 三井楽教会
遣唐使ふるさと館
城岳展望所
13 水ノ浦教会
15 打折教会
白良ヶ浜万葉公園
14 楠原教会
18 嵯峨島教会
17 貝津教会
通福寺
高浜海水浴場
頓泊海水浴場
五島観光歴史
福江教会 11
ふるさと
武家屋敷
明星院
黒瀬崎灯台
ゴルフ場
コンカナ王国鬼岳温泉
鬼岳天文
荒川温泉
12 繁敷教会
大浜海水浴場
香珠子海水浴場
大ツバキ
19 玉之浦教会
大瀬崎灯台
20 井持浦教会
富江温泉センター
さんさん富江キャンプ村
旧立谷教会跡地
大宝寺

カトリック信徒数と人口に対する割合(2016年)

◆世界のカトリック信徒数	12億7千万人(17.8%) ※2016年
◆日本のカトリック信徒数	434,054人(0.3%)
◆長崎県のカトリック信徒数	60,989人(4.4%)
◆五島列島のカトリック信徒数	8,375人(14.6%)
◆五島市のカトリック信徒数	3,113人(8.3%)

目　次

教会マップ

目次 1

教会のミニ知識 2

教会拝観マナー 3

ようこそ五島の教会へ 4

1 江上天主堂 …… 4
2 奈留教会 …… 5
3 五輪教会 …… 6
4 旧五輪教会堂 …… 7
5 牢屋の窄殉教記念教会 …… 8
6 浜脇教会 …… 9
7 半泊教会 …… 10
8 宮原教会 …… 11
9 堂崎教会 …… 12
10 浦頭教会 …… 13
11 福江教会 …… 14
12 繁敷教会 …… 15
13 水ノ浦教会 …… 16
14 楠原教会 …… 17
15 打折教会 …… 18
16 三井楽教会 …… 19
17 貝津教会 …… 20
18 嵯峨島教会 …… 21
19 玉之浦教会 …… 22
20 井持浦教会 …… 23

キリスト教の歴史 24

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 28

教会年表 32

教会にある装飾

教会のなかには知っておきたいいくつかのポイントがあります。祈りの場所として信徒たちが大切に守っている空間を、訪れる人も理解して拝観しましょう。

内　陣

内陣（ないじん）

ここでは、主祭壇を安置するためのもっとも神聖な場所をさします。聖職者以外は立ち入りができません。

聖　櫃

聖櫃（せいひつ）

祭壇にある、聖体を安置する箱。聖体（ミサで聖別されたパン）が納められている場合は、赤いランプが点いている。（聖体はイエス・キリスト自身。そのため、赤いランプはキリストがいることを示す。）

十字架の道行き（じゅうじかのみちゆき）

本来はキリストが十字架を担（にな）って歩んだ道のことをさします。アントニア城からカルワリオ（ゴルゴダ）の丘まで、キリストの身のうえに起こったできごとを回想しながら歩むカトリックの信心業をするために、14の十字架と絵や彫刻などが教会の壁に掲げられています。第１留から第14留までのキリストの受難の各場面を、順番に黙想し祈るようになっています。

※教会の取材・メディア関係のお尋ねは、長崎大司教区のホームページをご覧ください。
（http://www.nagasaki.catholic.jp）

「教会は祈りの家です」　訪ねるときに守りたいマナー

教会を訪ねるときは、まず、そこで祈りをささげる人々への理解が大切です。とくに訪問者は、拝観時のマナーを守ることに心がけましょう。

ミサや教会行事中は妨げにならないようにしましょう

・ミサ中や教会行事がある場合は、妨げにならないようにしましょう。また葬儀などの特別な場合、その時間帯は教会に入ることをご遠慮ください。

静かに、大声厳禁!　携帯電話はマナーモードに

・私語はつつしみ、携帯電話もマナーモードにしておきましょう。
・大声でのおしゃべりは厳禁です。教会のなかに誰もいない場合でも、静かに拝観しましょう。お子様づれの場合、ご同伴者が気を配ってあげましょう。

服装は肌の露出しすぎを避けましょう

・教会のなかに入るときは脱帽してください。平服でかまいませんが、大人のかたは短すぎるスカートやズボン、ノースリーブなど極端に肌を露出した服装は避けましょう。

五島市の教会のほとんどが土足厳禁、管理上非公開の教会もあります

・土足厳禁の教会では靴は下駄箱に入れてから拝観しましょう。
・祈りの場として多くの教会は開放されていますが、管理上閉じられている教会もあります。

教会内外の装飾物、聖具などには手を触れないでください

・教会に入るとすぐ、聖水盤があります。信者が身を清めるために、司祭が祝別した水（聖水）が入っています。
・教会の鐘の音は信者のみなさんにとって大切な合図になっていますので、鳴らさないようにしましょう。
・教会内には聖具、装飾物はもちろん、信者の聖書、聖歌集、祈祷書などが置いてあります。むやみに手を触れないようにしましょう。

内陣は入れません

・祭壇があり、一段高くなっている内陣は、もっとも神聖な場所です。内陣には絶対に入らないようにしましょう。

飲食、喫煙はできません

・教会内で飲食や喫煙をすることはできません。

教会内の撮影はできません

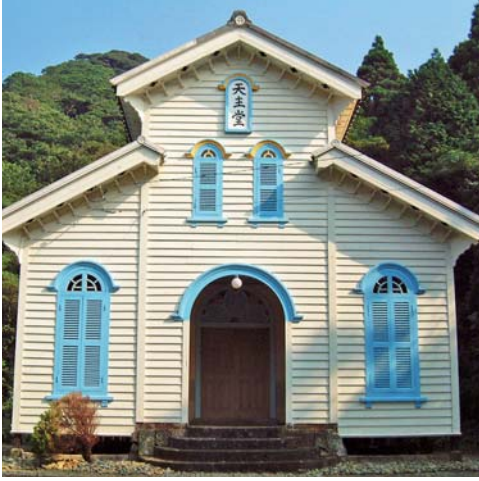
・基本的に教会内の撮影はできません。撮影は事前に管理者の許可が必要です。

ごみについて

・ごみは各自かならず持ち帰るようお願いします。

国指定重要文化財

1 江上天主堂



白壁とブルーの窓の愛らしさ

完成度の高い重要文化財で名工鉄川与助の代表作

江上天主堂の歴史は、1881年（明治14）３月に潜伏キリシタンの４家族が洗礼を受けたことにはじまります。かれらの先祖は、江戸時代末期に大村藩領（現在の長崎市外海方面）から移住してきたのでした。そのころ江上地区には教会がなかったため、信徒の家でミサがおこなわれていましたが、1906年（明治39）、現在地（奈留町大串1131）に簡素な教会が建てられました。

本格的な教会が建築着工されたのは、1917年（大正６）でした。当時の信徒は40～50戸でしたが、各地で教会建築をしていた鉄川与助に設計施工を依頼し、信徒たちはタブの木を伐りはらって敷地を造成しました。建築資金はすべて、キビナゴの地引網で得た収入などを出しあい、翌1918年（大正７）３月に完成させました。

江上天主堂を訪ねると、緑の木々の間からのぞく白い壁、窓がブルーの外観からは愛らしい印象を受けます。建物の構造は、湿気を避けるために床を高くし、柱には手描きの木目模様、窓には花を描いた透明ガラスを工夫していることなどが特徴です。内部は本格的な立面構成の三廊式になっており、リブ・ヴォールト天井（蝙蝠天井）の美しい曲線が、人々の祈りの空間をあたたかく包んでいます。

この教会は、わが国における木造の教会のうち、完成度の高い作品として歴史的価値に優れ、小規模ながら教会建築の名工鉄川与助の代表作としても重要であり、2008年（平成20）６月９日、国の重要文化財に指定されました。

所在地	えがみてんしゅどう 〒853-2202 五島市奈留町大串1131
アクセス	奈留港から車で15分
ミサの日	〈第３日曜日〉15:00
開閉（鍵）	通常は開いていません。内部見学には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンター」への事前申込が必要です。（HPか電話095-823-7650） 内部見学可能時間９:00～16:00 教会守が閉館日を除き常駐 内部見学不可日　毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、第３日曜日14:30以降
その他	駐車場　有、トイレ　有

2 奈留教会

大村藩からの移住者の子孫ら

移住の先駆者、葛島の信者全員が統合される

江戸時代末期、大村藩（現在の長崎市外海（そとめ）方面）から移住した潜伏キリシタンたちは、奈留（なる）地区の葛島（かずらしま）をはじめ島内各地に分かれて住み、開墾に従事しながら小さな集落を形成していきました。

1868年（明治元）の五島崩れの翌年、葛島の信徒12戸が役所に呼び出され、当時の頭取（郷長）ら３人が算木（さんぎ）責めの拷問をうけましたが、奈留島ではこれ以上の迫害は伝えられていません。

1873年（明治６）に禁教が解かれ、五島各地に教会が次々に建てられていきましたが、そのころの奈留島と周辺地区には葛島と江上の２教会しかありませんでした。

最初の奈留教会は、建設資金の大部分を宿輪（しゅくわ）集落の約20戸の信徒たちが負担し、上五島の青方（あおかた）の大工に依頼して、1926年（大正15）現在地に完成しました。その後拡張工事もおこなわれましたが、1959年（昭和34）、台風時には持ちこたえることができないとの判断がなされ、信徒の手で解体されました。

現教会は1961年（昭和36）に建設着工し、同年12月14日に祝別、献堂されました。

奈留教会史に残るできごとのひとつは、1973年（昭和48）３月に葛島の島民が集団で樫木山地区へ移転し、信徒の全員が奈留教会の所属になったことです。離島のさらに離島である葛島での生活の維持が困難になったためでした。

葛島は奈留島地区のなかで大村藩の潜伏キリシタンの移住がもっとも早くおこなわれ、百数十年間にわたり熱心な信仰の歴史が刻まれた島ですが、この集団移転により、葛島教会は廃堂となりました。

所在地	なるきょうかい 〒853-2201 五島市奈留町浦395
アクセス	奈留港から徒歩20分、奈留港から車で５分
ミサの日	〈月～金（水を除く）〉6:00 〈水〉17:30 〈第１、第３、第４土曜日〉19:00 〈第２土曜日〉18:00 〈日〉8:30（7・8・9月は7:00）
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　有、トイレ　有

3 五輪教会

素朴な生活に根ざした信仰

旧五輪教会堂に並んで建つ、新しい教会

久賀島（ひさかじま）の険しい山を背景にして、奈留（なる）瀬戸に面した小さな漁港のわずかな土地に、旧五輪（ごりん）教会堂と五輪教会が並んで建っています。五輪教会は、旧五輪教会堂の老朽化のため、1985年（昭和60）に建てられました。歴史ある旧五輪教会堂を保存し、隣接して建てられたもので、五島市内ではもっとも新しい教会堂のひとつです。

五輪教会内陣（※）にあるキリストを抱く聖ヨゼフ像、左右の十字架の道行き（※）の額など、すべて小ぶりで簡素なものですが、この地区の素朴な生活に根ざした信仰がうかがえます。

教会の建っている五輪地区は、現在でも車が入る道がなく、訪れる人は途中で車を降りて山道を歩くか、海上タクシーや漁船を利用する方法がとられています。

（※）主な祭壇を安置するための聖職者専用の空間（２ｐ参照）

（※）２ｐ参照

所在地	ごりんきょうかい 〒853-2172 五島市蕨町五輪
アクセス	福江港→海上タクシー25分→五輪港 福江港→定期船20分→田ノ浦港→車約40分→下車徒歩10分 福江港→車12分→奥浦港→海上タクシー10分→田ノ浦港又は浜脇港→車約40分→下車徒歩10分
ミサの日	〈第１日曜日〉10:00
開閉（鍵）	通常は開いていません
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　無（車は行けません）、トイレ　有

国指定重要文化財

4 旧五輪教会堂

信徒の熱意が解体の危機救う

日本家屋の外観からは想像できない内部の空間構成

旧五輪（ごりん）教会堂は、浜脇教会の建て替えを機に、五輪地区に譲り受けたものです。1881年（明治14）に浜脇教会として久賀島（ひさかじま）の浜脇に建てられたものが、1931年（昭和６）に現在地に移築されました。旧五輪教会堂は以後約50年間、五輪地区と蕨小島の信徒たちの信仰のよりどころでしたが、老朽化のため1985年（昭和60）、すぐそばに五輪教会が新築され、教会の役目を終えました。

この時点で解体の話が持ちあがりましたが、“貴重な文化財として、価値ある建造物を守ろう”との関係者の熱意と地元信徒たちの協力によって解体の危機を乗り越え、当初の姿で保存されることになりました。建物は福江市（現五島市）に寄贈され、市の維持管理のもと、一般公開され現在にいたっています。

建物は創建時の形態をよく伝えていますが、移築の際には正面玄関が付加され、祭壇背後の下屋も拡張された形跡がみとめられます。木造瓦葺平屋建、窓がポインテッドアーチ型である点を除けば、外観は一見全くの和風建築です。内部は三廊式、板張りのリブ・ヴォールト天井による空間構成、ゴシック風祭壇など、本格的な教会建築様式となっています。当時の教会建築の様子を知るうえで、歴史的に貴重な建造物であり、1999年（平成11）５月13日、国の重要文化財に指定されました。

所在地	きゅうごりんきょうかいどう 〒853-2172 五島市蕨町993-11
アクセス	福江港→海上タクシー25分→五輪港 福江港→定期船20分→田ノ浦港→車約40分→下車徒歩10分 福江港→車12分→奥浦港→海上タクシー10分→田ノ浦港又は浜脇港→車約40分→下車徒歩10分
ミサの日	ミサは行われていません
開閉（鍵）	内部見学には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンター」への事前申込が必要です。（HPか電話095-823-7650） 内部見学可能時間　9:00～17:00 教会守が9:00～16:00の間対応　※月曜日を除く
その他	駐車場　無（車不可）、トイレ　無

5 牢屋の窄殉教記念教会

「五島崩れ」の歴史を刻む場所

毎年、内外から信徒が集まり殉教者をたたえる

1868年（明治元）、この地（久賀町大開）で久賀島内の信徒たちが捕らえられ、残酷な責め苦を受けました。のちに「五島崩れ」と呼ばれる、五島におけるキリシタン弾圧のきっかけともなったできごとです。

かれらは自らキリスト教（カトリック）の信仰を表明したために捕らえられたもので、12畳ほどの狭い牢に200名あまりが押し込められました。これは畳１枚あたり17人という狭さで、横になることもできず、排泄もその場にしなければならないという想像を絶する惨状でした。信徒たちは８ヵ月にわたりこの状況を耐えしのびましたが、飢えや病、拷問のために39名が死亡し、出牢後の死者３名を加えると42名の信徒が命を落としました。

この殉教の場所に建てられているのが、現在の牢屋の窄殉教記念教会です。最初の教会は、殉教者を顕彰するため1969年（昭和44）３月、殉教地にほど近い場所に建てられ、その後老朽化により1984年（昭和59）に実際に牢屋のあった場所に建て替えられました。現在、教会の内部は床のじゅうたんが色分けされ、牢の広さがひと目でわかるようになっており、かれらの苦しみを雄弁に物語っています。

この地では毎年秋に、殉教者をたたえ先祖の信仰に倣うため、五島内外の信徒や巡礼者が集まって、牢屋の窄殉教祭が行われています。

所在地	ろうやのさこじゅんきょうきねんきょうかい 〒853-2171 五島市久賀町大開
アクセス	福江港→定期船20分→田ノ浦港→車15分→教会 福江港→車15分→奥浦港→海上タクシー10分→田ノ浦港又は浜脇港→車15分→教会
ミサの日	〈第３日曜日〉9:30
開閉（鍵）	通常は開いていません
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　無、トイレ　有

6 浜脇教会

五島初の鉄筋コンクリート造り

久賀島で最初の本格的木造教会は役目を終えて

寛政年間に大村藩から移住した潜伏キリシタンは、久賀島では上平、細石流、永里、幸泊、外輪、大開などに落ち着きました。

1866年（慶応２）ごろ、久賀島の潜伏キリシタンたちの耳にも歴史的な長崎の信徒発見のできごとや、プティジャン司教の情報が入ってきました。先祖代々伝えられていた、待ちに待ったパードレ（カトリックの司祭）の出現に、危険も顧みず久賀島から密かに長崎に渡り、プティジャン司教に教えを請いに出かける信徒もでてきました。その後久賀島では、禁教政策が続くさなか、代官所に自らキリシタンであることを公言する信徒が次々に現れました。このことが久賀島牢屋の窄殉教事件へと発展したのです。

その久賀の地で迫害を乗り越えた信徒たちによって1881年（明治14）に建立されたのが、最初の浜脇教会です。外観はまったくの和風建築でしたが、内部は三廊式、板張りのリブ・ヴォールト天井による空間構成、ゴシック風祭壇など、本格的な教会建築様式の立派な教会でした（現旧五輪教会堂）。

木造の教会は潮風にさらされて傷みが激しく、増え続ける信徒の数に対応できなくなり、1931年（昭和６）、台風にそなえて堅牢さを求め、五島初の鉄筋コンクリート造りの教会に建て替えられ、現在に至っています。

所在地	はまわききょうかい 〒853-2173 五島市田ノ浦町263
アクセス	福江港→定期船20分→田ノ浦港→徒歩10分→教会 福江港→車15分→奥浦港→海上タクシー10分→田ノ浦港又は浜脇港→徒歩10分→教会
ミサの日	〈第１、第３、第５日曜日〉8:00 〈第２、第４土曜日〉18:00 〈第１金曜日〉6:00 〈第２、第３、第４、第５木曜日〉6:00
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　有、トイレ　有

7 半泊教会

清潔感と祈りの場の清々しさ

鉄川与助が施工し、アイルランドからの浄財も

江戸時代末期、キリシタン弾圧から逃れるために大村藩領から五島へやってきた数家族が、福江島北東部の小さな浜に上陸しました。しかしこれだけの人数が住みつくには土地が狭かったので、その半数だけがここにとどまりました。残りの半数は三井楽（みいらく）方面へと向かったことから、この地は半泊（はんとまり）と呼ばれるようになりました。

半泊集落では1920年（大正９）から教会の建築計画が具体化し、アイルランドからの浄財が建設資金にあてられることになりました。信徒たちも、貧しい生活のなかから奉仕作業に精を出しました。大工は鉄川与助で、教会用地として信徒の畑が買収され、工期３ヵ年を要して1922年（大正11）に完成しました。

一見して民家のような建物の中は、素朴な木材を使用しており、飾りを抑えた祭壇と壁で構成され、すっきりとした清潔感がただよいます。折上げ天井で三廊式、祭壇の前には白い壁に水色でふちどりされた清々しい祈りの空間が広がっています。

新築から５年後、信徒たちは教会を台風の被害から守るため、半泊海岸の石を集めて、教会正面に防風石垣を築きました。その後も大がかりな修復工事が施され、1970年（昭和45）には敷地の境にブロック壁が設置されるなど、現在に至るまで大切に維持管理がなされています。

所在地	はんとまりきょうかい 〒853-0054 五島市戸岐町半泊1223
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で30分
ミサの日	ミサは行われていません
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00（冬期16:00まで）
その他	駐車場　有、トイレ　無

8 宮原教会

待ち焦がれた、神父の巡回

ペリュー師がミサを捧げ、洗礼を授けた地

1797年（寛政９）以降、大村藩から五島へ移住した潜伏キリシタンたちは、奥浦地区では、平蔵（ひらぞう）、浦頭（うらがしら）、大泊（おおとまり）、浜泊（はまどまり）、堂崎（どうざき）、嵯峨瀬（さがせ）、観音平（かんのんびら）、半泊（はんとまり）、間伏（まぶし）、そしてここ宮原（みやばら）にも住み着きました。宮原のキリシタンたちも、地元地区の寺の檀徒となって潜伏していたといわれています。

幾多の苦難を乗り越えた信徒たちは、禁教の高札が撤去され、外国人宣教師がやってくるようになると、自分たちの集落に教会を建設しました。ペリュー師がこの教会に巡回しミサを捧げてから、当時の総代など十数人が洗礼を受けたと伝えられています。

この教会では、宣教師から教えを受けた伝道婦が巡回宿泊し、カトリックの教理や子どものしつけなどを説いていました。そのころの教会の内部のようすは、祭壇の前にミサのときにだけ開ける障子があり、普通は閉めて使用したそうです。

1971年（昭和46）、信徒たちは当時の総代を中心に資金の積立をはじめ、同年７月11日に改築工事が完了して、現在に至っています。

所在地	みやばらきょうかい 〒853-0054 五島市戸岐町773-2
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で20分
ミサの日	〈第２、第４日曜日〉13:00
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　有、トイレ　無

9 堂崎教会

五島におけるキリスト教復活の拠点

布教の重要拠点としての堂々たる存在感

1868年（明治元）の久賀島牢屋の窄殉教事件をきっかけに、奥浦地区でもキリシタンに対する拷問や捕縛、入牢などの迫害がおこなわれました。

1873年（明治６）、フレノー師が来島し、禁教の高札撤去後、五島で初めてのクリスマスミサが堂崎の浜辺で捧げられました。1877年（明治10）には司祭が常駐するようになり、五島での本格的な司牧が開始されました。以後島内各地に小教区制度が整うまで、堂崎は五島キリシタン復活後の拠点としての重要な役割を果たすことになりました。

1880年（明治13）パリ外国宣教会マルマン師によって、堂崎に仮聖堂が建立されました。後任のペリュー師によって建て替え工事がおこなわれ、1907年（明治40）に現在の教会が完成し、翌年1908年（明治41）に祝別されました。

当時の建築技術を物語る証しとして、1974年（昭和49）４月９日、長崎県の文化財に指定されました。

1977年（昭和52）には、内部に堂崎天主堂キリシタン資料館が開設され、布教時代から迫害を経て復活にいたる信仰の歴史が展示されています。

さらにこの地は宣教再開と同時期に、宣教師の指導のもとにはじまった子部屋と、その事業母体となった女部屋発祥の地でもあり、信仰に貫かれたもうひとつの歴史が刻まれています。

所在地	どうざききょうかい 〒853-0053 五島市奥浦町堂崎2019
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で15分
ミサの日	〈第１日曜日〉6:00
入館料	[一般のお客様] 大人300円　中高生150円　小人100円 (20名以上団体割引あり) [障がい者手帳をお持ちの方] 大人150円　中高生100円　小人50円
開館時間	9:00～17:00(冬期16:00まで)
その他	駐車場　有、トイレ　有
備考	聖堂内部に堂崎天主堂キリシタン資料館

10 浦頭教会

ノアの箱舟をイメージして

里山をバックに白亜のモダンな姿が映える

1868年（明治元）12月、福江島の奥浦村では信徒59名が浦頭（うらがしら）の信徒宅に囚われるというできごとがあり、久賀（ひさか）島に引きつづきキリシタン迫害が本格化していきました。その後も入牢者は増え、別の牢に２年あまり収容された者もいました。1873年（明治６）の禁教の高札撤去に伴って、迫害や追放は止まり、投獄されることはなくなりました。

浦頭の地に初代教会が建立されたのは、1888年（明治21）のことです。２代目の教会は鉄川与助の設計、施工により、1921年（大正10）６月に完成しました。そのころは平蔵（ひらぞう）教会と呼ばれていました。日曜日のミサに集まる近郊からの信徒たちは教会に入りきれず、外庭まではみ出す状況でした。そこで、1950年（昭和25）５月に大幅な増改築工事がおこなわれた経緯があります。

現在の浦頭教会は、1968年（昭和43）、集落の高台に場所を移し建設されました。下五島の中心的役割を果たした堂崎（どうざき）小教区の廃止および大泊教会の閉鎖がなされ、奥浦地区の信徒たちは、翌年発足した浦頭小教区（当時の信徒数1,170人、戸数170戸）に属し、現在にいたっています。

四季折々の装いを見せる里山をバックに、白亜のモダンな姿が際立つ浦頭教会は、旧約聖書のノアの箱舟をイメージしたものです。近年は浦頭教会を会場に、市内の音楽愛好家や信徒も加えた奥浦混声合唱団による荘厳な聖歌のコンサートなども行われています。

所在地	うらがしらきょうかい 〒853-0051 五島市平蔵町2716
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で10分
ミサの日	〈月～金（火を除く）〉6:00 〈火〉17:00 〈日〉5:30（第１日曜日を除く）、8:00
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　有、トイレ　有

11 福江教会

「福江大火」で焼失を免れて

下五島の中心にあり、信徒数が最も多い

福江教会の歴史は、1896年（明治29）に久賀島から最初の信徒が福江地区に移り住んだことにはじまります。その後、ペリュー師が1910年（明治43）前後に、当時公立病院の病棟が建っていた現在の教会敷地を建物とともに購入し、教会に改造しました。

1914年（大正３）４月には、それまで所属していた旧堂崎小教区から分離・独立し、あらたに福江小教区としての歩みをスタートさせました。

福江教会信徒の長年の夢であり懸案であった新しい教会の建設は、信徒らが資金を出しあい、1961年（昭和36）３月着工、1962年（昭和37）４月25日献堂という形で実を結びました。

そのわずか５ヵ月後の９月26日未明に起こった「福江大火」は、市街地の大部分を焼失するという長崎県内では戦後最大の大火災でしたが、完成間もない福江教会は奇跡的に焼失を免れ、焼け跡にそびえ立つ教会が、復興のシンボルとして被災者を勇気づけました。

五島市の行政、経済の中心地に位置し、下五島地区では信徒数が最も多い教会で、市内の教会の中心的な役割も担っています。

所在地	ふくえきょうかい 〒853-0005 五島市末広町3-6
アクセス	福江港から徒歩15分 福江空港から車で10分
ミサの日	〈月～金〉6:00 〈土（主日ミサ）〉19:00 〈日〉6:00、9:00
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　有、トイレ　有

12 繁敷教会

「山ン田」に建てられた教会

移転して鬱蒼とした山道のてっぺんにひっそりと

1853年（嘉永６）、岐宿（きしく）村福見に住んでいたキリシタンの１家族が開墾に従事しながら10年がかりで繁敷（しげじき）の地まで田を広げていったことから、繁敷教会の歴史がはじまりました。その後慶応年間には、この地に潜伏キリシタンたちが集まってきて８世帯になり、山を開いたことから「山ン田」と呼ばれるようになりました。

彼らは神仏の信仰を装いながらひそかにキリスト教を守っていましたが、五島における迫害の嵐はこの山奥の地にも例外なく押し寄せ、1870年（明治３）からは拷問、弾圧、田畑や財産の没収、略奪など、厳しく辛い苦しみは１年半近くつづきました。

苦難を乗り越えた信徒たちは、1919年（大正８）、現在地ではなく山のふもとの平地に最初の教会を建てました。この教会は第二次大戦中、食糧増産のために繁敷ダムの建設が開始された折、作業員の宿舎として使用されることになりました。ところが1943年（昭和18年）ごろ、寝泊りしていた人の火の不始末で焼失してしまいました。その後、1948年（昭和23）に教会再建にこぎつけましたが、この教会も繁敷ダムの建設区域内ということで取り壊され、この時点で多くの信徒が長崎市や外海（そとめ）町（現長崎市）方面に移住しました。

26年の歳月を経て、1974年（昭和49）、繁敷ダムの脇を通り、鬱蒼（うっそう）とした山道を登りつめたわずかな土地に建てられたのが、現在の教会です。

所在地	しげじききょうかい 〒853-0204 五島市富江町繁敷道蓮寺
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で30分
ミサの日	不定期
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～16:00
その他	駐車場　有（２台）、トイレ　無

13 水ノ浦教会

鉄川与助の名作木造の教会

被昇天の聖母に捧げられた優美な白亜

水ノ浦（みずのうら）教会の歴史は、江戸時代末期に大村藩領から移住した潜伏キリシタンのうち、5人の男性とその妻子らの移住にはじまります。かれらは仏教徒を装いながらひそかにキリスト教を信仰する日々でした。1866年（慶応2）のころ、上五島の信者が水ノ浦に来て、長崎の大浦にキリシタンの教会が建っていることを告げました。同年11月8日、水ノ浦の帳方（ちょうかた）など3人が長崎に行き、プティジャン司教に面接してメダイや十字架をもらい受け、帰島しました。

1868年（明治元）12月25日、水ノ浦のキリシタンたちが帳方の家に集まって祈っているところを役人に踏み込まれるという事件がありました。4～5日後、30余名の男性が捕らえられ、急ぎ牢にしつらえた同帳方宅につながれました。大半の信徒は1869年（明治2）に出牢を許されましたが、主だった8名はさらに2年あまりを牢内に留めおかれました。

水ノ浦の信徒たちは、禁教の高札撤去から7年後の1880年（明治13）に、水ノ浦湾を一望する小高い丘の上に最初の教会を建立しました。

60年近くの歳月を経て、教会は容赦なく吹きつける潮風に老朽化してしまい、建て替えられることになりました。現水ノ浦教会は1938年（昭和13）、設計、施工が名工鉄川与助で、当時雲仙に建てる予定だった教会が諸般の事情によりとりやめとなり、その資材をそのまま買い受けて進められました。

被昇天の聖母に捧げられた白亜の優美な教会です。

所在地	みずのうらきょうかい 〒853-0701 五島市岐宿町岐宿1643-1
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で30分
ミサの日	〈月・金〉5:45 〈水〉17:30 〈土〉18:00 〈日（奇数週）〉8:30 〈日（偶数週）〉6:30
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～16:00
その他	駐車場　有（必ず教会下の駐車場に停めて下さい）、トイレ　有

14 楠原教会

ゴシック様式レンガ造の剛健さ

境内にはファチマの聖母と牧童の像も

大村藩（現在の長崎市外海方面）から移住してきた潜伏キリシタン第一陣108名のうち、一部の者は楠原に住みつきました。1865年（元治２）、信徒発見の日を迎え、五島のキリシタンたちも次々と長崎のプティジャン司教のもとを訪れて、五島の津々浦々に待ちに待った神父到来の報せが伝えられました。しかし、五島では明治に入るころから信徒への弾圧や捕縛がはじまり、楠原でも帳方の家が牢にあてられました。

やがて水ノ浦の牢に移され、棄教を迫る役人の残酷な拷問が待っていました。1873年（明治６）、禁教の高札が撤去され、ようやく捕縛や入牢はなくなりました。

1912年（明治45）、鉄川与助により３年の歳月をかけて完成したのが、現在の楠原教会です。外観はレンガ造りのゴシック様式で、内部はリブ・ヴォールト天井になっており、下五島に現存する教会としては、堂崎教会に次いで２番目に古い教会です。

その後、年月の経過とともに楠原教会は徐々に傷みが出はじめ、そのつど部分的な補修がおこなわれていましたが、1968年（昭和43）には祭壇部分を含めた大がかりな増築、補修工事が行われ、現在に至っています。

境内にはファチマの聖母と牧童たちのかわいい像を配した一角があり、こちらも祈りの場になっています。

近くには1868年（明治元）の弾圧でキリシタンが投獄された楠原牢屋敷跡があり、記念碑が建てられています。

所在地	くすはらきょうかい 〒853-0703 五島市岐宿町楠原
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で30分
ミサの日	〈木・土〉5:45 〈日（奇数週）〉6:30 〈日（偶数週）〉8:30
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～16:00
その他	駐車場　有（20台）、トイレ　有

15 打折教会

質素でシンプルな海辺の教会

祈りを求め、教会建設の願い叶えた信徒の居場所

下五島にキリシタン弾圧の嵐が吹き荒れた明治初期、打折（うちおり）地区の信徒たちも、岐宿（きしく）地区などの信徒らと同様、捕らえられたあと水ノ浦の牢に入れられ、苦難に耐えなければなりませんでした。

禁教の高札が撤去されると、島内各地区には教会が次々に建設されていきましたが、打折の集落には長い間教会がありませんでした。信徒たちは日曜日のミサに参加するため、徒歩で２時間かけて楠原教会に行くか、船で水ノ浦教会に通っていました。

信徒たちの念願であった打折教会の建設は1935年（昭和10）のことで、年に一度の黙想会のために集落裏手の山の中腹に建てられ、その後定期的にミサが捧げられていました。当時、近くには共同墓地もありましたが、道らしい道もなく、田と畑のあぜ道を通って教会へ行き来していました。

その後老朽化により1973年（昭和48）、海辺に場所を移して建設されたのが、現在の打折教会です。

打折教会は切妻の屋根をかけた単純な形式で、小規模ながら壁は白色のペンキで仕上げられた質素な教会です。

信徒たちは月２回のミサはもとより教会を大切に守っています。

所在地	うちおりきょうかい 〒853-0702 五島市岐宿町川原打折
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で30分
ミサの日	〈第１、第３日曜日〉10:30 ※お休みの場合あり
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～16:00
その他	駐車場　無、トイレ　有

16 三井楽教会

ステンドグラスに想いを込めて

外壁正面の陶器で描かれた モザイク聖画も印象的

三井楽（みいらく）教会は、外壁正面の陶器で描かれた大きなモザイク聖画（テーマは諸聖人）と、内部のステンドグラスの美しさが非常に印象的な教会です。ステンドグラスは三井楽出身の篤志家が費用を出し、地元のボランティアグループによって数年かけて制作され、2005年（平成17）に完成した、比較的新しいものです。

この地区のキリシタンの歴史は、1772年（安永元）に70人の農民が渕ノ元（ふちのもと）へ、翌年の1773年（安永２）には大勢が三井楽へ移住してはじまり、この３年後には78人が渕ノ元に住居を定めています。1839年（天保10）には、長崎の浦上２番崩れで放免された信徒の一部が三井楽（嶽（だけ）集落）に住みつきました。

1868年（明治元）、久賀（ひさか）島に端を発したキリシタン迫害は三井楽にも及びます。信徒たちは弾圧に耐え、棄教者や死亡者を出すことなく大半は１ヵ月で出牢できましたが、一部の者は牢に残され、全員が放免されたのは1871年（明治４）のことでした。

1880年（明治13）、現在地にゴシック様式の木造の教会が建設されました。その後年月の経過とともに、必要に応じて大修理を施し、信徒の増加に対応するために増改築を重ねましたが、建築から90年後の1970年（昭和45）、シロアリによる被害のため解体せざるを得ませんでした。

翌1971年（昭和46）には新しい教会が建立され、現在に至っています。

所在地	みいらくきょうかい 〒853-0607 五島市三井楽町嶽1420
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で40分
ミサの日	〈月～土（火・水を除く）〉6:00 〈土（主日ミサ）〉18:30 〈日〉7:30
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　有、トイレ　有

17 貝津教会

三角屋根の尖塔が増築されて

ステンドグラスから入る光がぬくもりの空間へ

貝津教会の歴史は、大村藩領から三井楽の古田や玉之浦町頓泊に移住した潜伏キリシタンが、その後竹山集落に再移住したことからはじまりました。

明治初期、久賀島の迫害が三井楽にも及ぶと、貝津の信徒たちも濱ノ畔の代官屋敷で責め苦を受け、牢に入れられました。禁教の高札撤去から半世紀後の1924年（大正13）、当時40戸の信徒たちにより木造の現教会が建立され、使徒聖ヨハネに捧げられました。貝津教会は岳（現三井楽）小教区の巡回教会として発足したもので、当時の信徒の大部分が竹山集落に住んでいました。現教会が建つ前は、同じ敷地に10坪足らずの旧聖堂がありましたが、非常に狭く、司祭巡回時には信徒が聖堂外にあふれていたそうです。

1952年（昭和27）には、岳小教区から独立して貝津小教区となりました。現教会は1962年（昭和37）に老朽化のため大幅な増改築がなされ、三角屋根の小さな尖塔はこのとき新たに付け加えられたものです。内部はステンドグラスを通して差し込む赤や青、緑色の鮮やかな光の芸術が、素朴なぬくもりのある空間を彩っています。

ひっそりと静まり返った堂内には、内陣に色とりどりの季節の花が飾られ、厳かな中にも訪れる人に心の安らぎを感じさせてくれます。

所在地	かいつきょうかい 〒853-0604 五島市三井楽町貝津458
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で40分
ミサの日	〈水〉6:00 〈日〉6:00
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場 有（10台）、トイレ 有

18 嵯峨島教会

創建時の姿、大切に守り続け

漁業に従事する信徒がマリア像に航海の無事を祈る

1797年（寛政９）以降、大村藩から迫害を避け逃れてきた潜伏キリシタンたちは、貝津（かいつ）の西方沖合い４キロの地点に浮かぶ小さな嵯峨島（さがのしま）にも住みつきました。

禁教の高札撤去後、嵯峨島に教会が建てられるまでは信徒の家を利用してミサが捧げられていましたが、1888年（明治21）小聖堂が建てられました。

その後1918年（大正７）、信徒たちが多く住む竹原集落に木造の現教会を完成させました。教会の創建当初は三井楽（みいらく）小教区に所属していましたが、1953年（昭和28）貝津教会が三井楽小教区から分離、独立したのを機に、貝津小教区の巡回教会となって現在に至っています。島の信徒たちは1918年（大正７）に建てられた現在の教会を、たびたび改修や補修を繰り返しながら大切に維持しています。

高齢化が進む五島にあって比較的若い世代の多い活気ある島で、先祖からの信仰は子や孫の世代へと受け継がれています。漁業が盛んなこの島では住民の大半が漁業に従事しており、信徒たちは船にマリア像を運び入れ、危険を伴う海の仕事を先祖と同じように祈りに委ねています。

現在嵯峨島教会には三井楽教会から月に２回司祭が巡回し、ミサが行われています。

所在地	さがのしまきょうかい 〒853-0611 五島市三井楽町嵯峨島
アクセス	貝津港から嵯峨島旅客船で10分→嵯峨島桟橋から徒歩約10分
ミサの日	〈第１、第３日曜日〉10:00頃 ※天候により日程が変更になることもありますので、ご確認ください。
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場３台、 トイレ（嵯峨島船待合所に有）

19 玉之浦教会

なつかしい童話の世界のような

まわりの風景に溶けこんだ調和の教会

玉之浦（たまのうら）では当初この地区に多く見られた２階建ての信徒宅の、２階部分でミサが捧げられていました。同じ場所に、周辺の集落から転居してきた人なども含めたこの地区の信徒たちによって、1962年（昭和37）に建てられたのが現在の玉之浦教会です。

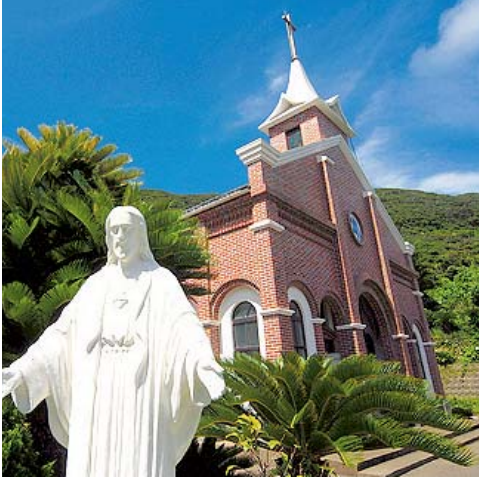
玉之浦教会は、絶景の地、大瀬崎（おおせざき）断崖（灯台）と日本最古のルルドのある井持浦（いもちうら）教会からほど近い玉之浦町の中心地に位置しています。波静かな海辺に面し、民家の立ち並ぶ一角にある教会で、切妻屋根に玄関を付加した素朴な造りです。内部は小規模ながら祭壇と信徒席とが調和し、落ち着いた祈りの空間になっています。尖塔、十字架、そして白い壁の小さな教会は、遠目にもくっきりと映え、まわりの風景にしっくりなじんで、どこかなつかしい童話の世界を感じさせます。

所在地	たまのうらきょうかい 〒853-0411 五島市玉之浦町玉之浦622-1
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で65分
ミサの日	〈第１、第３水曜日〉17:00
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　無、トイレ　有

20 井持浦教会

日本最古のルルドを訪ねて

嵯峨島など五島各地の岩石を洞窟に



井持浦教会の建っている玉之浦一帯は、五島に迫害の嵐が吹き荒れた明治初期、唯一迫害を逃れた地区です。

1897年（明治30）、フランス人宣教師ペリュー師の指導によってリブ・ヴォールト天井を有するレンガ造りの立派な教会が建設されました。それから２年後の1899年（明治32）、ペリュー師はこの地にフランスのルルド（聖母出現の地）を模した洞窟を創設することを信徒に呼びかけました。

ペリュー師の指導のもと、東シナ海の怒涛に洗われた嵯峨島の岩石多数をはじめ、五島の各地から形の良い石やめずらしい岩石が集められ、教会脇のまかない部屋をとりこわした場所にルルドが築かれました。完成後ペリュー師は、母国フランスから取り寄せた本場ルルドの奇跡の泉水を注ぎ入れ、同じくフランスから取り寄せた聖母像を洞窟に収めました。1900年（明治33）にはクザン司教により井持浦教会ルルドの盛大な祝別式がおこなわれました。

教会建築から29年が経過した1924年（大正13）になると教会内部の拡張のため、建設当初教会の両外側に吹き放ちになっていたアーケードを堂内に取り込む改修が行われました。初のロマネスク風教会として名を馳せた初代の井持浦教会も、建築から90年後の1987年（昭和62）、台風の甚大な被害を受けたために取り壊され、翌年新しく現在の井持浦教会が建立されました。

所在地	いもちうらきょうかい 〒853-0411 五島市玉之浦町玉之浦1243
アクセス	福江港、福江空港からいずれも車で60分
ミサの日	〈第２、第４、第５水曜日〉17:00 〈第１、第３、第５土曜日〉17:00 〈第２、第４日曜日〉8:30
開閉（鍵）	通常は開いています
拝観可能時間	9:00～17:00
その他	駐車場　有（50台）、トイレ　有

キリスト教の歴史

―五島列島での信仰の足跡―

伝来

フランシスコ・ザビエルの布教が長崎に根づいて

ヨーロッパでは、15世紀初頭から大航海時代がはじまり、新たな世界への「冒険」・「新発見」によって世界観を激変させました。とくに東洋への関心が高まり、ポルトガルは16世紀の初めに、ゴアとマラッカをアジア貿易の中継地としました。

1543年、ポルトガル人は初めて日本の種子島に到達して鉄砲を伝え、1549年にはイエズス会の創立メンバーの一人フランシスコ・ザビエルが来日し、キリスト教の布教をはじめました。

フランシスコ・ザビエルによって日本に伝えられたキリスト教は、西日本を中心に短い期間に広がりをみせました。1580年、最初のキリシタン大名大村純忠（おおむらすみただ）によってイエズス会に寄進された長崎は、日本におけるキリスト教布教の中心となり、多くの教会や関連施設が建てられました。その繁栄ぶりは当時の記録に「日本における小ローマ」と記されています。

下五島の布教と発展

アルメイダの布教にはじまり信徒2,000人

下五島へのキリスト教伝来は1566年、領主宇久純定（うくすみさだ）が、修道士ルイス・デ・アルメイダ（医師でもある）とロレンソ了斎（りょうさい）（日本人修道士）のふたりを五島に招いたことにはじまります。アルメイダとロレンソから教えを学んだ家臣のうち25人が洗礼を受けて、五島最初のキリシタンが生まれました。

下五島で家臣25人が洗礼を受けたことを知った奥浦（おくうら）の人々は、120人が洗礼を受けました。

宇久純定の子純尭（すみたか）は、アルメイダの後任のモンテ神父から洗礼をうけ、ルイスという洗礼名でドン・ルイスと呼ばれました。純尭はやがて結婚し、夫人、侍女15人、家臣100人が洗礼を受けました。19代藩主を継いだ純尭は、自ら島内を布教して回り、信者の数は増え続けその数は後に2,000人に及びました。この間、領主は教会を建てることを許可し、福江城下と奥浦の地に教会が設けられています。

弾圧・潜伏時代

キリシタンが絶えた島に大村藩からの移住者が

1597年には長崎で二十六聖人殉教事件がおこりました。更に1637年の「島原の乱」をきっかけに、キリシタンへの弾圧と取り締まりは厳しくなっていきました。こうした状況が長く続いたためローマ教皇庁においては、日本のキリシタンは一人もいなくなったと考えられていました。

下五島も例外ではなく、キリスト教に対する弾圧は厳しさを増していきましたが、密かに信仰を守っている人々もいました。その数は最も多いときで2,300人を超えていたといわれています。また、二十六聖人のヨハネ五島は五島出身で、迫害をのがれて長崎に移り住んで伝道師となりましたが捕らえられ、ほかの25人と一緒に長崎の西坂の丘で殉教しました。

絵踏による宗門改などのキリシタン弾圧が始まった後も、下五島では神父たちによる布教活動は密かに続けられていたため、寛永５年（1628）、五島藩はキリシタンの入島禁止を厳しくしました。このような迫害が続くなか、五島ではついにキリシタンは絶えたというのが定説になっています。

寛永９（1797）年、大村藩から五島藩への農民（潜伏キリシタン）約3,000人が間引きと絵踏から逃れ信仰を守るために五島に移住してきました。キリシタンたちは密かに帳方（ちょうかた）、水方（みずかた）、取次役（とりつぎやく）の三役（注:三役の呼び方は地域によって異なります）を中心に、神父のいない状況にありながらも信仰を守っていました。

復活

明治元年にはじまった五島におけるキリシタン弾圧

ペリー来航による開国を機に、パリ外国宣教会の神父たちが来日します。長崎外国人居留地に大浦天主堂が建てられると、浦上の潜伏キリシタン十数名が訪れ、プティジャン神父に信仰を告白しました（1865年）。この「信徒発見」のニュースは、禁教政策の続く日本から密かにバチカンにもたらされ、世界中を駆けめぐり世界宗教史上の奇跡と呼ばれ、大きな衝撃と感動を与えました。しかし、この後、浦上の住民が捕縛され、各地に流配される「浦上四番くずれ」と呼ばれる悲劇が起こりました。これらの事件に対する外国からの非難は激しく、明治６年（1873）には禁教が解かれました。

五島では明治元（1868）年、久賀（ひさか）島におけるキリシタン弾圧（牢屋の窄（さこ）殉教事件）が始まり、信仰を棄てるよう迫られたキリシタンの苦しみは、幼い子どもを含む多くの殉教者を出すなど、計り知れないものでした。このころから下五島全域での迫害は激しさを増していきました。

信仰の証

外国人神父の指導で未知の教会建築に挑んだ棟梁たち

明治６（1873）年禁制の高札が取り払われると、大小さまざまなカトリック教会が県内各地に建てられていきました。

下五島でも外国人神父による布教活動が本格化するなか、信徒たちは信仰の自由を得た喜びを、教会建築という形であらわしました。これらの教会の多くは外国人神父の指導のもと日本人大工の手で、キリシタンが密かに信仰を守り抜いた地に建てられました。そして信徒たちは、決して豊かでない暮らしの中から自分の大切な財産や労力を喜んで教会建築のために捧げたのです。

旧奥浦慈恵院（1968～2006）

「奥浦慈恵院」

ペリュー神父が私財を投じた児童養護施設

パリ外国宣教会の宣教師たちが初めて五島で本格的な布教を始めた頃は、五島の人々は非常に貧しく、双子のひとりや障害児などを闇に葬る「間引き」が行われていました。そのため、堂崎（どうざき）に初代教会を建設したマルマン神父が、こうした不幸な子らの救済に乗り出しました。神父の賄（まかな）いをしていた女性たちを中心に、カトリックの家族の娘たちに協力を求め、大泊（おおとまり）の一民家を借りうけて養育を開始したのが、「児童養護施設奥浦慈恵院（おくうらじけいいん）」の起源です。当時は「子部屋」と呼ばれていました。

1880年（明治13）、堂崎に教会を建設するのと同時に子部屋を堂崎に移転しました。後任のペリュー神父は、ご母堂の遺産を投じて赤瀬（あかせ）の山林を購入、開墾し、1904年（明治37）この地に新たな養育院を完成させました。

当時、女性たちは農耕作業や行商により収入を得、それを子どもたちの養育にあてるなど、まさに自給自足の時代でした。1909年（明治42）、財団法人として認可を受け、奥浦慈恵院となって2006年（平成18）には平蔵（ひらぞう）町に移転しています。

世界遺産候補

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、キリスト教が禁じられている中で、長崎と天草地方において日本の伝統的宗教や一般社会と共生しながら信仰を続けた潜伏キリシタンの信仰継続にかかわる伝統のあかしとなる遺産群です。

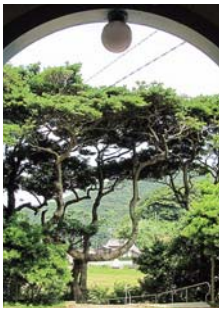
それらは、潜伏キリシタンの伝統の始まりからその形成、維持、拡大の段階を経て、新たな信仰の局面の到来によって伝統が変容し、終わりを迎えるまで、潜伏キリシタンの伝統の歴史を語る上で必要不可欠な12の構成資産からなります。それらは、大航海時代のアジアにおいてキリスト教宣教地の東端にあたる日本列島の中で、最も集中的に宣教が行われた長崎と天草地方の半島や離島に点在しています。

久賀島の集落

禁教期の潜伏キリシタンが五島藩の開拓移民政策に従い、未開拓地に移住して自らのかたちで信仰を続けた集落です。外海地域から久賀島へ移住した潜伏キリシタンは、在来の仏教集落から離れた場所を開拓して集落を形成する一方、漁業や農業などの作業をともに行うことで仏教集落の住民とも互助関係を築き、ひそかに自らの信仰を続けました。「信徒発見」後、最後の弾圧を乗り越えてカトリックへと復帰し、解禁後は各集落に新たに教会堂を建て、その伝統は終わりを迎えました。

奈留島の江上集落 （江上天主堂のその周辺）

禁教期の潜伏キリシタンが狭い谷間に移住し、その地勢に適応しながら自らのかたちで信仰を続け、解禁後に教会堂を建てた集落です。奈留島内の既存の集落から離れた江上地区に移住した潜伏キリシタンは、海に近い谷間に居を構え、わずかな農地や漁業で生計を営み、自らの信仰を組織的に続けました。解禁後、彼らはカトリックへと復帰し、湧水に恵まれ防風に優れた場所に、湿度や風通しに配慮した在来技術を用いて教会堂を建て、その伝統は終わりを迎えました。江上天主堂は、長崎と天草地方において、潜伏キリシタン集落としての風土的特徴と、カトリック教会堂としての西洋的特徴との融合がもたらした教会堂の代表例です。



世界遺産とは？

世界遺産は、世界のすべての人々が共有し、現在から未来の世代に引き継いでいくべき「人類共通のたからもの」です。

世界中のみんなが大切に守ってきた「非常に価値ある建物、遺跡、自然」のなかから、ユネスコの世界遺産委員会において決められたルール（世界遺産条約）にしたがって選ばれます。必要な条件を満たし、正式に登録されたものを『世界遺産』といいます。

どこに世界遺産の価値があるの？

(1) 江戸時代末期、五島には信仰を守るために、すべてをおいて外海（そとめ）からキリシタン約3,000人がやってきました。久賀島（ひさかじま）の牢屋（さこ）の窄では42人も殉教するなど、五島各地でさまざまな迫害、弾圧にあいながらも耐え抜き、命がけで信仰を守り抜いてきました。長い禁教時代、命がけで信仰を守ったという事実と歴史に価値があるのです。

(2) 信徒たちが弾圧と迫害を避けて生活した集落とそこに建つ教会は、周りの自然環境と相まって、五島独特の景観を形成しています。また、外国人神父の指導のもと、日本人の棟梁によって建てられた教会は、当時の教会建築の様子を知るうえでも歴史的に貴重な価値を持っています。

なぜ「世界遺産」をめざすの？

五島の「すばらしいたからもの」を大切に守り、次の世代に伝えていくために、世界文化遺産登録を目指しています。

詳しくは五島市の世界遺産ホームページ・フェイスブックをご覧ください。
http://www.city.goto.nagasaki.jp/sekaiisan/

五島を世界遺産の島に　検索

教会年表

教会名称	保護者	概　　要
廃　大泊教会	聖ヨゼフ	明治12年（仮小屋）建立、明治36年建立、昭和43年閉鎖、解体。
1　堂崎教会	日本二十六聖人殉教者	明治13年小聖堂建立、現建物は明治41年祝別・献堂。昭和49年長崎県指定有形文化財に指定される。
2　水ノ浦教会	被昇天の聖母	明治12年建立、現建物は昭和13年建立。
3　三井楽教会	諸聖人	明治13年建立、昭和８、22、27年の３回改築。現建物は昭和46年建立。
4　浜脇教会	至聖なるイエズスの聖心	明治14年建立、現建物は昭和６年建立。
5　旧五輪教会堂	聖ヨゼフ（教会として使用されていた当時）	現建物は、明治14年に浜脇教会として建立されたものを、昭和６年現在地に移築。平成11年５月13日国の重要文化財に指定され、現在は市の管轄。
廃　立谷教会	聖ペトロ・パウロ	明治15～20年頃:専門家による推定。昭和62年老朽化により倒壊。跡地に祭壇、聖像を設置し祈りの場としている。
6　宮原教会	聖ドミニコ	明治18年建立、現建物は昭和46年建立。
7　浦頭教会	使徒聖ペトロ・聖パウロ	明治21年建立（当初は聖十字架称賛）、大正10年建立、昭和25年増改築。現建物は昭和43年建立（教会の保護者を変更）。
8　嵯峨島教会	ロザリオの聖母	明治21年小聖堂建立、現建物は大正７年建立し、改築を重ね現在に至る。
廃　姫島教会	大天使聖ミカエル	明治21年小聖堂建立、大正７年建立、昭和６年増築。昭和40年島民の流出により無人島となり現在に至る。
9　井持浦教会	ルルド出現の聖母	明治30年建立、昭和62年台風により倒壊。（明治32年日本初のルルド創設）現建物は昭和63年建立。
廃　葛島教会	イエスの聖心	明治32年建立、昭和26年台風により倒壊。昭和29年建立。昭和48年全島民の移転により無人となり廃堂。

教会名称	保護者	概　　要
10　江上天主堂	聖ヨゼフ	明治39年建立、現建物は大正７年建立。平成20年６月９日国の重要文化財に指定される。
11　福江教会	イエスのみ心	明治43年前後建物付土地を購入し、建物を改造し教会として使用。現建物は昭和37年建立。
12　楠原教会	聖家族	現建物は明治45年建立、昭和43年増築。
廃　永里教会	被昇天の聖母	大正７年建立。昭和44年牢屋の窄殉教記念教会の建立と同時に閉鎖。
13　繁敷教会	大天使ミカエル	大正８年建立、昭和23年建立、現建物は昭和49年建立。
廃　細石流教会	聖アンナ	大正９年建立。昭和44年牢屋の窄殉教記念教会の建立と同時に閉鎖。
14　半泊教会	聖パトリック	現建物は大正11年建立。
15　貝津教会	使徒聖ヨハネ	小聖堂:建立年不詳。現建物は大正13年建立。
16　奈留教会	聖フランシスコ・ザビエル	大正15年建立、昭和４年拡張工事。現建物は昭和36年建立。
廃　赤仁田教会	無原罪の聖マリア	大正15年建立。昭和44年牢屋の窄殉教記念教会の建立と同時に閉鎖。
南越教会	大天使聖ミカエル	昭和２年建立、現建物は昭和32年建立。平成27年閉堂。
17　打折教会	諸聖人	昭和10年建立、現建物は昭和48年建立。
18　玉之浦教会	聖フランシスコ・ザビエル	現建物は昭和37年建立。
19　牢屋の窄殉教記念教会	殉教者の元后	細石流、永里、赤仁田の３教会を閉鎖し昭和44年建立、現建物は昭和59年建立。
20　五輪教会	聖ヨゼフ	現建物は昭和60年建立。

「教会は祈りの家です」
拝観時のマナーを守ることを心がけましょう

・ミサや教会行事中は、信者の妨げにならないようにしましょう
・葬儀など特別な儀式の場合は、拝観をご遠慮ください
・鐘は鳴らさないでください
・できるだけ、公共のトイレをお使いください
・土足厳禁の教会では、靴は下駄箱へ入れましょう
・教会の中に入るときは、脱帽し、静かにしましょう
・服装は、祈りの場にふさわしいものを着用しましょう
・私語はつつしみ、携帯電話をマナーモードにしておきましょう
・教会内外の聖具、装飾物には手を触れないようにしましょう
・内陣には入らないでください
・飲食や喫煙はご遠慮ください
・原則として、教会内の撮影はできません
・ごみは各自持ち帰りましょう

発行日／2011年2月（初版）　2017年12月（10刷）

発行／五島市世界遺産登録推進協議会

〒853-8501　長崎県五島市福江町１番１号（五島市役所政策企画課内）
TEL 0959-72-6782　FAX 0959-74-1994